



# 「コロナで頑張っ赤字」を変えよう

コロナ患者を受け容れた病院が軒並み赤字。コロナ対策に不眠不休で頑張ったのに、職員のボーナスを減らさざるを得ないとか。心が痛みますね。

**医療報酬は？**

現在、医療機関に払われる医療報酬は、日常的に同じ位の病気が発生し、同じ位の患者が来る事が前提。しかし、コロナで世界は変わった。これまでなら医者に診てもらった患者が来ない。コロナ患者を受け容れる病院では、病室を空けて待つ。新型コロナが予想通り流行らないうと採算が取れない。これでは医療機関は軒並み赤字になる。

患者が回復し、退院すると医師看護師達は嬉しい。しかし、病院経営の立場からはベツドが空くと入院費が入らなくなり悲鳴。これっておかしくない？

**医療報酬のあり方を**

医療機関を開いておく為の設備費等や、医師看護師職員の通常の報酬は患者の有無に拘わらず国など、公で負担すべきだ。

そうすれば、コロナ患者の為にベツドを空けて待ったり、手のかかる発熱外来を設ける事も出来る。

その上で治療内容に応じた費用を医療機関に渡せば良い。

こうすれば、感染の危険を冒しながら治療に当たったスタッフにはボーナスを増やすこともできる。

医療報酬の仕組みを変えて「コロナで赤字」を無くすべきだ。

あなたはどお思われますか？

## 和泉川宮沢遊水池の眼鏡橋

神奈川県横浜市瀬谷区宮沢

二〇二〇年六月



2020.6.15 徹

石を組んでアーチを作り、それが支えとなった石橋が眼鏡橋。古代ローマ帝国で盛んに作られた。ローマの技術との関係は私は知らないが、日本でも江戸時代、九州で通潤橋など石のアーチ橋が沢山作られた。

眼鏡橋があると聞き、描きに出かけた。尤も、ここにあったのは現代の建築物。多分、鉄筋コンクリート製だろう。

しかし、この形が、何故か郷愁を誘う。

和泉川の本流はこの眼鏡橋の左側にあり、ここは遊水池。この下流には様々な運動場がある。

橋の向こうでは、月曜が休みのお父さんだらうか、小さい子にキックスケーターを教えた。

池にはカルガモや白鷺が来るそうだが、この日には会えなかった。